

第5回世界水フォーラムに参加

西条市の水を守る姿勢を世界に発信

去る3月16日～22日の間、トルコ共和国のイスタンブールで開催された第5回世界水フォーラム（World Water Forum）に西条市と、水に関する共同研究を行っている総合地球環境学研究所（大西条市の水利用や歴史について発表しました。



西条市の水利用について、英語で発表する佐々木和乙生活環境部長

世界水フォーラムは、3年に1度、3月22日の「世界水の日」に合わせて開催される「水」に関する世界最大の国際会議で、さまざまな利害関係者の参加と対話を通して、持続可能な発展のための水政策の立案に貢献しようというものです。

今回、西条市が発表を行うこととなったのは、平成19年度から実施している道前平野地下水資源調査解析事業による科学的な水資源調査をもとに、地域での地下水利用を保全する「西条モデル」を世界に向けて発信する必要があるとして、同調査解析事業にご協力いただいている総合地球環境学研究所に推薦いただいたからです。

第5回世界水フォーラムには、世界192カ国から約3万人が参加し、主要テーマ「Bridging Divides for Water

（水問題解決のための架け橋）」のもと、100以上の会議が開催され、気候変動と水災害管理、飲料水、トイレ・衛生、食料、エネルギー、流域における水資源の保護・管理、政治、経済、教育などについてさまざまな議論がなされました。会場内では、世界の水危機などを訴える国際機関の出展や、各国のパビリオンが設けられ、水に関する企業・政府関係者が先進的な技術や取り組みを紹介していました。

また、17日には、皇太子殿下が「水とかかわるー人と水との密接なつながりー」と題する基調講演を行われ、過去の歴史などの紹介、水管理には絶え間のない継続的な努力が必要であることを述べられました。

西条市が参加した会議は20日に行われ、「水科学と水管理に社会文化的考えを！ 何が架け橋で何が障害か」というテーマについて9名が発表しました。この中で西条市は「未知の共通資源を規制する 地下水に関する地域社会と科学の共同作業」というタイトルで、前述の総合地球環境学研究所の谷口真人教授と佐々木和乙生活環境部長が10分間の発表を行いました。

発表では、西条市の平野部に水田が多いという土地利用の特徴や地下水の自噴域の広がり、市街地でも地下水に頼っていること、過去の干拓の事例、弘法水のいわれなどを紹介し、うちぬきに代表される地下水が現在も

Self Pumping Wells



Local Water Use



▲発表で使用した資料（抜粋）。地下水の自噴水と、地域での水の使い方を紹介しました。

西条市民の生活の基盤であるということとを伝えました。西条の地下水が古くから生活に根付き、利用・保全されてきたことを説明した上で、科学的知見とこれまで受け継がれている地域コミュニティを融合し、現在「総有」という概念を持って水管理を行っていくという姿勢が、世界から集まった聴衆に受け入れられたようでした。

「水は売らない、地域で活用する」と世界に向けて西条市の思いを発信することで、水を守っていく姿勢に確信を得ることができ、今後進むべき道がより明確になりました。

問合せ

市庁舎別館 環境衛生課
環境計画係

TEL 0897-52-1221